

表 1

	N	T1-S chord inclination		T1-T7 chord inclination		T7-L1 chord inclination		L1-S chord inclination		Sacral inclination	
		Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.
Hyperflexed	8	84.2	6.91	67.5	6.11	80.0	13.02	99.8	7.32	68.6	20.40
Flexed	14	86.1	4.33	75.0	5.36	85.4	8.66	94.5	3.93	57.7	9.63
Straight	9	87.3	3.10	83.1	5.39	89.7	2.92	87.9	4.58	50.5	8.51
Extended	3	80.3	8.32	88.1	2.96	86.0	11.38	69.9	9.75	27.7	1.27
Hyperextended	5	88.5	8.34	104.8	7.18	100.4	9.55	67.0	13.02	9.5	16.77
Total	39	85.8	5.71	80.1	12.61	87.2	10.57	88.7	13.06	49.8	22.43

表 2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 T1-S inclination	1.000								
2 T1-T7 inclination	0.347*	1.000							
3 T7-L1 inclination	0.776**	0.535**	1.000						
4 L1-S inclination	0.375*	-0.637**	-0.184	1.000					
5 Sacral inclination	-0.002	-0.660**	-0.525**	0.829**	1.000				
6 T1-T7-L1 angle	-0.185	0.623**	-0.246	-0.430**	-0.189	1.000			
7 T7-L1-S angle	0.270	0.778**	0.747**	-0.750**	-0.856**	0.239	1.000		
8 L1-S-S angle	0.460**	0.473**	0.703**	-0.300	-0.754**	0.018	0.701**	1.000	
9 T1-S-S angle	0.332*	0.735**	0.736**	-0.644**	-0.926**	0.203	0.919**	0.902**	1.000

4) PMD の上肢運動パターン

国立徳島療養所

西 庄 武 彦 松 家 豊
 奥 村 建 明 白 井 陽一郎

PMDの上肢機能の評価方法の一つの試みとして上肢運動パターンに検討を加えたので、その結果を報告する。対象はすべてPMD、D型である。

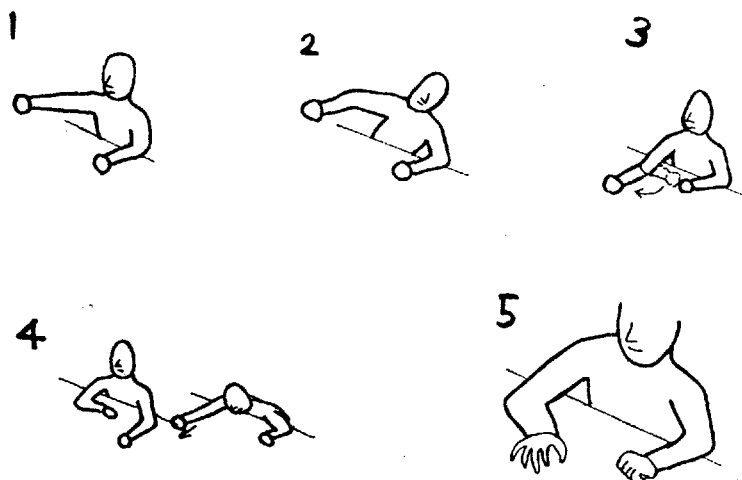
運動パターンによる評価方法はすでにPriceによってStacking testとして報告されている。この方法について当療養所52症例に追試してみた。ほぼ全例が、これらのパターンに該当していた。

Stacking testは垂直方向の上肢運動の評価方法である。今回、私達はこの方法に加え、水平方向の上肢運動パターンについて検討を加えた。

方法は座位で肘と同じ高さの机上で水平運動を行なわせ観察した。水平運動パターンは次の5段

階に分類された。(図1)

図1



1. 躯幹の代償を伴ず、上肢挙上のまま水平移動可能。
2. 躯幹の側屈を伴い、上肢を挙上し水平移動を行なう。
3. テーブルの上で前腕をスライドさせ、水平移動を行なう。
4. 躯幹の前屈と同時に、その反動で肘伸展を行ない水平移動を行なう。
5. 手指および手関節の屈伸、あるいは前腕の回内外を行ないながら“尺取り虫”様に水平移動を行なう。

以上の5段階の水平運動パターンは病勢の進展とともに1から5へと漸次変化するものと考えられた。

徒手筋力テストと、それぞれの水平運動パターンとの対比を行ない、次の述べることが考えられた。段階1のパターンは肩関節および上肢筋が充分残存し、代償機能を必要としない。段階2のパターンは上肢挙上に不足した筋力を躯幹筋の代償で補っている。段階3のパターンは躯幹筋の代償を伴わず、肘伸展筋のみで前腕をスライドさせ、段階4のパターンは躯幹前屈の反動で水平移動を行なっているが段階3のパターンと比較すると肘伸展筋力はさらに弱化している。段階5のパターンは躯幹筋、上腕筋等の筋力の著しい弱化に伴い、手指屈筋群、前腕回内、回外筋あるいは手内筋の使用で水平移動を行なっている。

以上、PMD児の上肢運動パターンについて調査し、その運動パターンの種類と筋力との関連について検討を加えた。我々の分類した運動パターンの段階の評価方法はPMDの総合的上肢機能評価として役立つものと考えられる。なおこの水平運動パターンについては、運動の“慣れ”による影響がないことと、また簡便であることで実用的価値があると思われた。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

PMD の上肢機能の評価方法の一つの試みとして上肢運動パターンに検討を加えたので、その結果を報告する。対象はすべて PMD、D 型である。

運動パターンによる評価方法はすでに Price によって Stacking test として報告されている。

この方法について当療養所 52 症例に追試してみた。ほぼ全例が、これらのパターンに該当していた。